

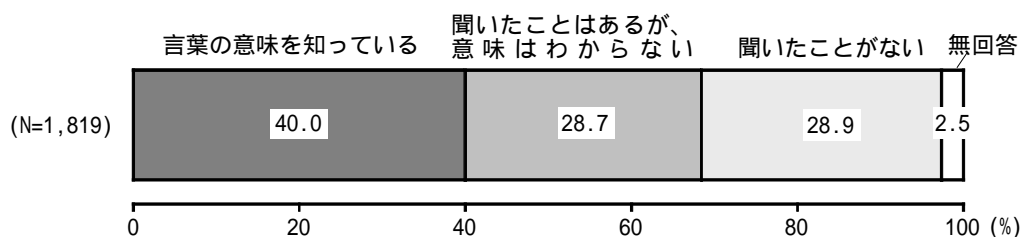
6. 男女の役割や考え方について

6-1. 「男女共同参画社会」の認知度

「男女共同参画社会」の認知率は4割

問16. あなたは、「男女共同参画社会」という言葉をお聞きになったことがありますか(は1つだけ)。

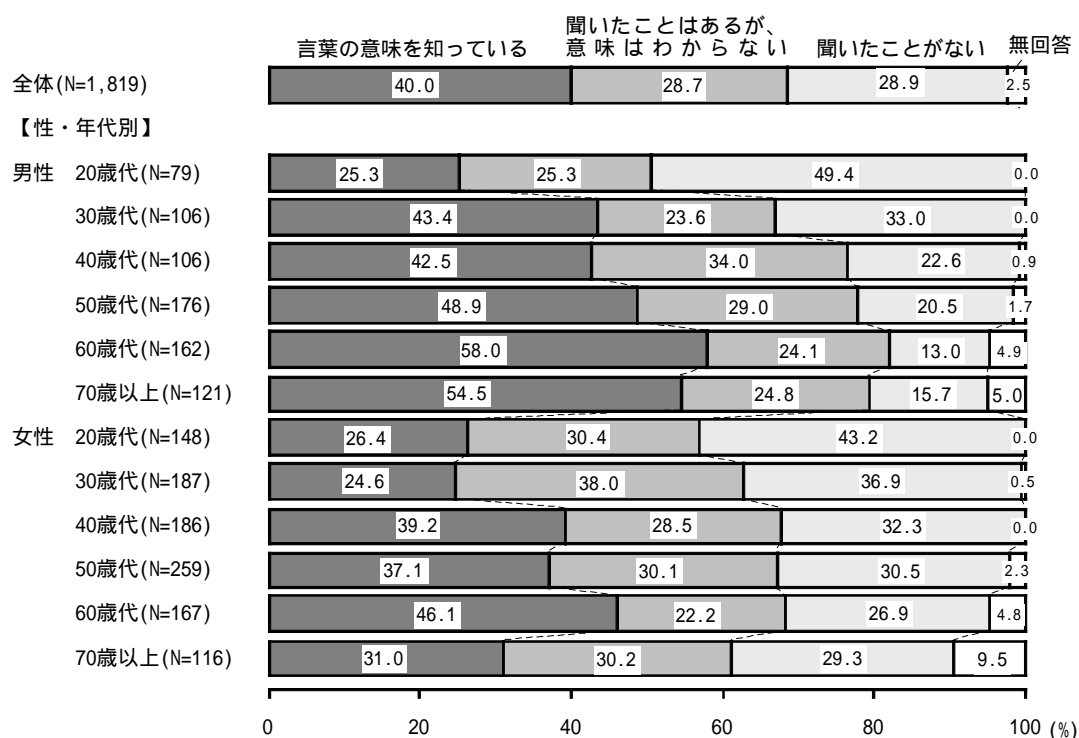
【図6-1 「男女共同参画社会」の認知度】



「男女共同参画社会」の認知度については、「言葉の意味を知っている」が40.0%と最も多くなっている。なお、「聞いたことがない」28.9%、「聞いたことはあるが、意味はわからない」28.7%とほぼ同率となっている。(図6-1)

性・年代別にみると、男女とも、20歳代では「聞いたことがない」が、40歳代以上では「言葉の意味を知っている」が最も多く、年代が上がるにつれて認知率が高くなる傾向にある。30歳代については、男性では「言葉の意味を知っている」が最も多いが、女性では「聞いたことはあるが、意味はわからない」が最も多くなっている。なお認知率は、いずれの年代においても男性の方が女性より高く、特に男女差が大きくなっているのは70歳以上(23.5ポイント差)と30歳代(18.8ポイント差)である。(図6-1-1)

【図6-1-1 性・年代別 「男女共同参画社会」の認知度】

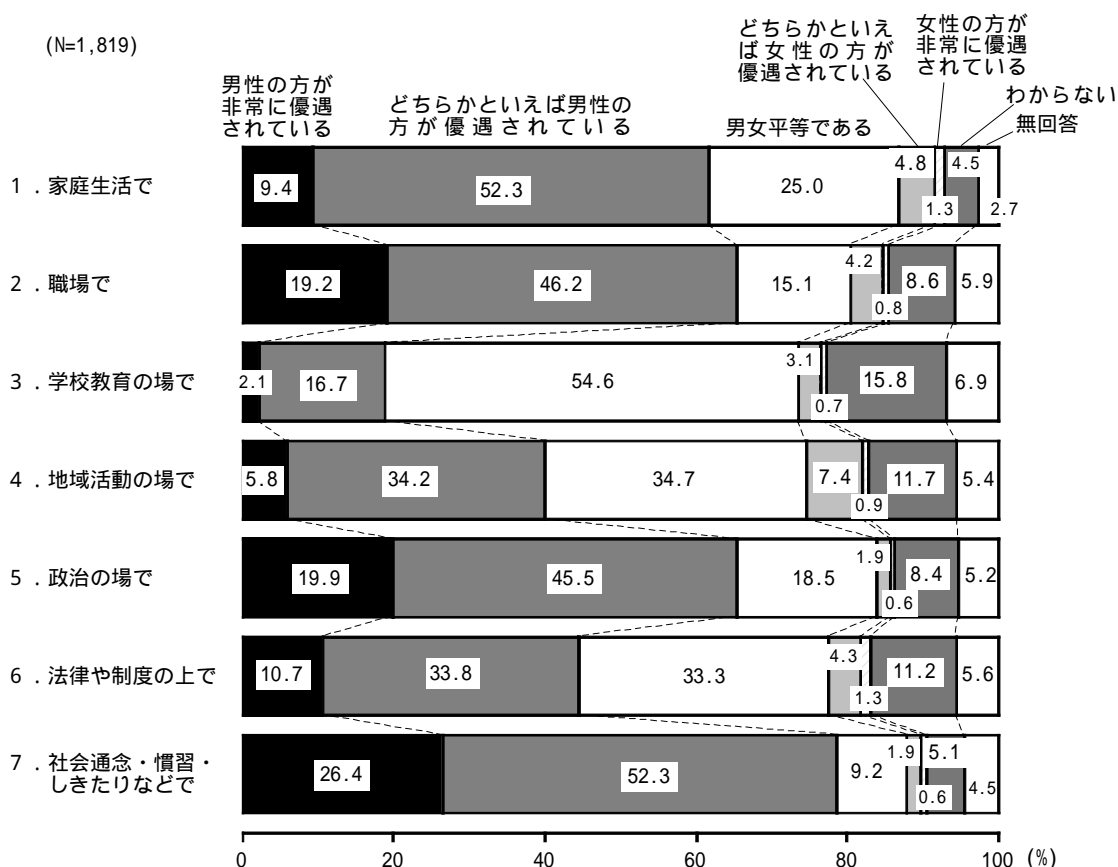


6 - 2 . 男女平等の現状認識

学校教育の場では『男女平等派』が、社会通念・慣習等、職場、政治の場、家庭生活では『男性優遇派』が過半数

問17. あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はいいくつでも)

【図6 - 2 男女平等の現状認識】



各分野における男女の地位の平等についてみる。『男性優遇派』(「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた値)が多いのは、社会通念・慣習・しきたりなど 78.7%、職場 政治の場 (ともに) 65.4%、家庭生活 61.7% である。一方、『女性優遇派』(「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた値)は、いずれについても1割未満と非常に少ない。なお、学校教育の場 地域活動の場 法律や制度上 については『男女平等派』(「男女平等である」の値)が多くなっており、特に 学校教育の場 では54.6%と高くなっている。(図6 - 2)

1．家庭生活で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が5割から8割を占め、男性では40歳代で61.3%、女性では20歳代で77.7%と最も高くなっている。また、20～60歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高く、『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～50歳代で、特に20歳代で32.1ポイント差と大きい。(図6-2-1-1)

2．職場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が4割から8割強を占め、男性では40歳代で69.8%、女性では20歳代で85.8%と最も高くなっている。また、20～50歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなって、『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～30歳代で、特に20歳代で21.2ポイント差と大きい。(図6-2-1-2)

3．学校教育の場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男女平等派』が4割から7割を占め、男性では30歳代で69.8%、女性では40歳代で59.7%と最も高くなっている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは30歳代および60歳代で、30歳代で14.6ポイント差と大きい。(図6-2-2-3)

4．地域活動の場で

性・年代別にみると、男性では『男女平等派』が4割から5割を占めるが、女性では『男性優遇派』が3割から5割強を占めている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは30～40歳代で、特に40歳代で25.7ポイント差と大きい。(図6-2-2-4)

5．政治の場で

性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が4割から9割を占め、男性では50歳代で65.4%、女性では20歳代で90.5%と最も高くなっている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差が大きくなっているのは20～40歳代で、特に20歳代で26.0ポイント差と大きい。(図6-2-2-5)

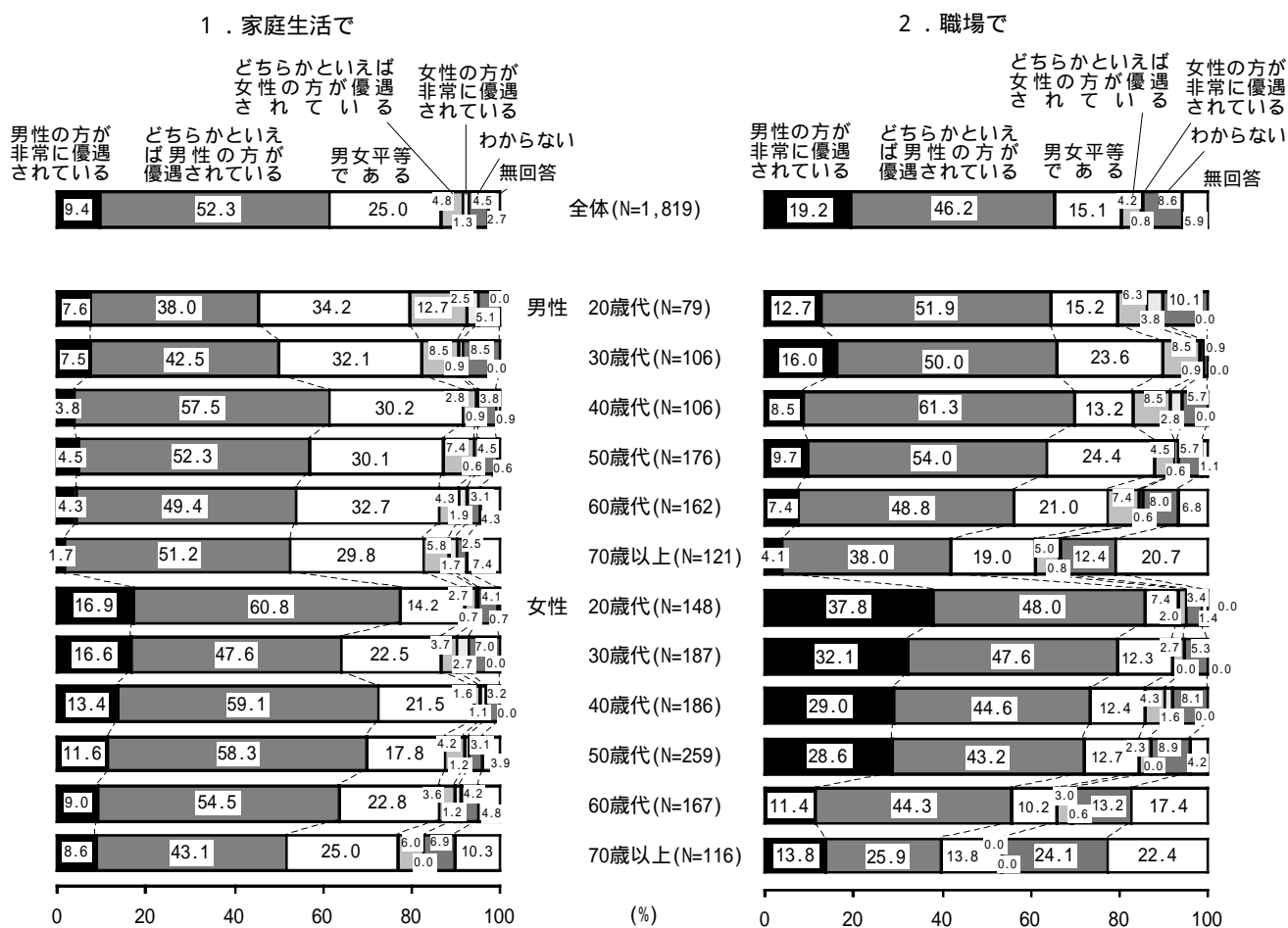
6. 法律や制度の上で

性・年代別にみると、男性では『男女平等派』が3割から6割を占めるが、女性では『男性優遇派』が3割から6割を占めている。なお、いずれの年代においても『男性優遇派』が『女性優遇派』より高くなっており、かつ『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっている。『男性優遇派』の割合の男女差は各年代とも大きく、特に30歳代で23.2ポイント差と大きい。(図6-2-2-6)

7. 社会通念・慣習・しきたりなどで

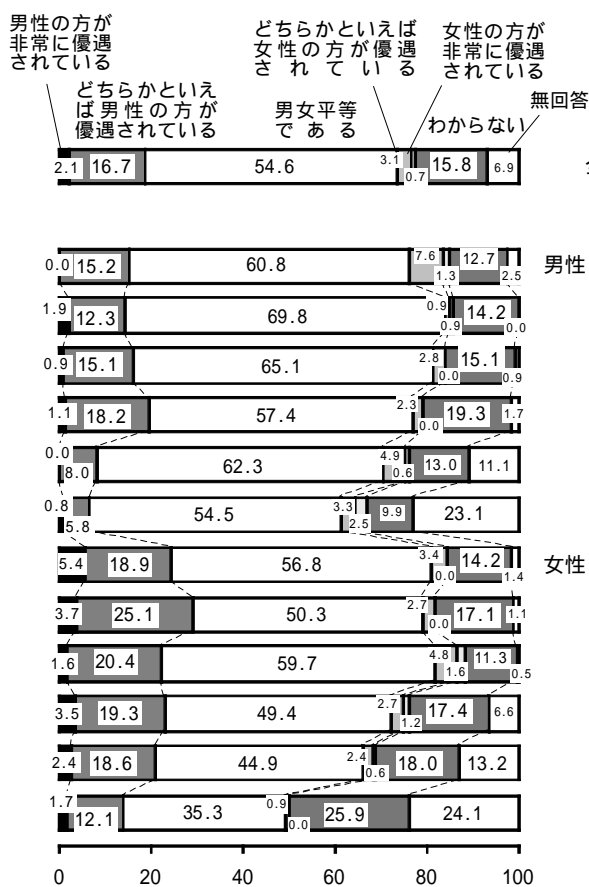
性・年代別にみると、男女とも、いずれの年代においても『男性優遇派』が5割強から9割を占め、男性では30~50歳代で約8割、女性では20~40歳代で約9割と高くなっている。なお、20~60歳代については、『男性優遇派』の割合は女性の方が男性より高くなっており、『男性優遇派』の割合の男女差が大きいのは20歳代および40歳代で、特に20歳代で23.4ポイントと大きい。(図6-2-3-7)

【図6-2-1 性・年代別 男女平等の現状認識】

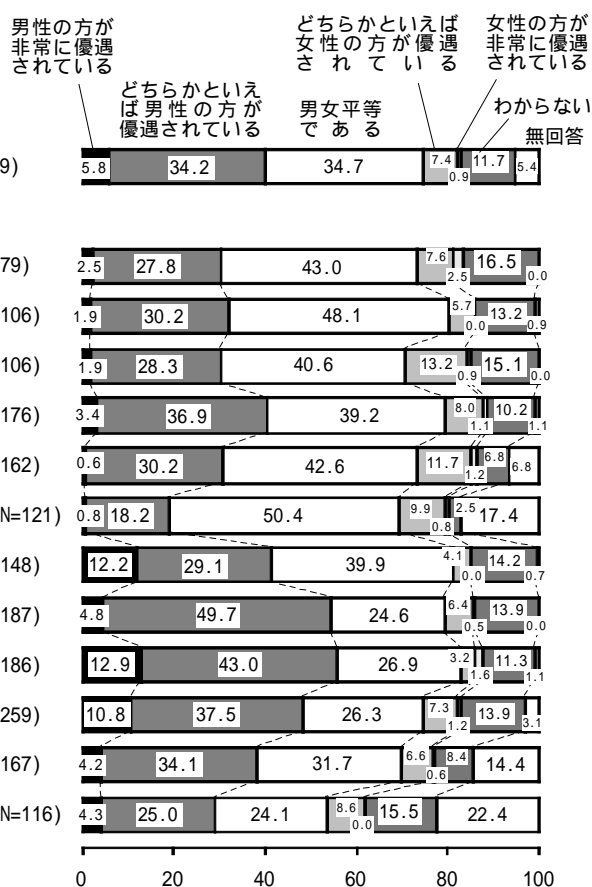


【図6-2-2 性・年代別 男女平等の現状認識】

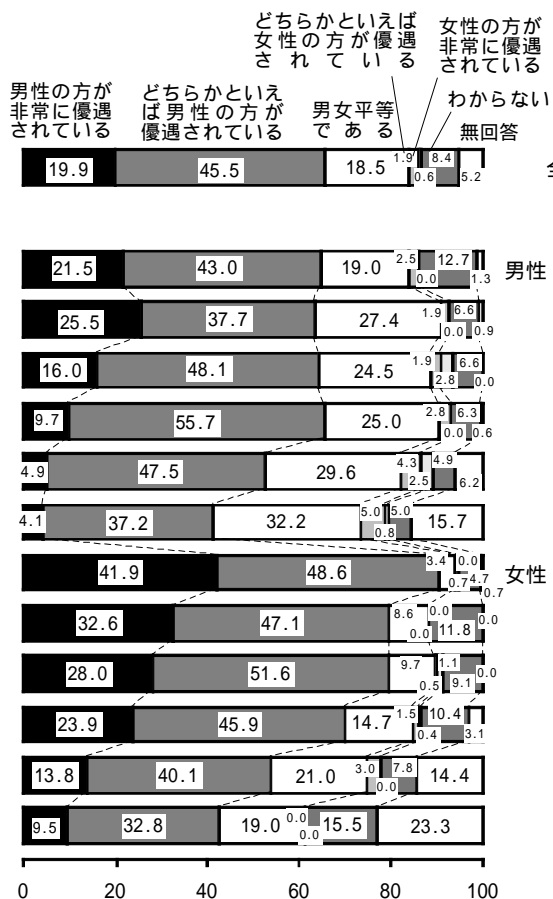
3. 学校教育の場で



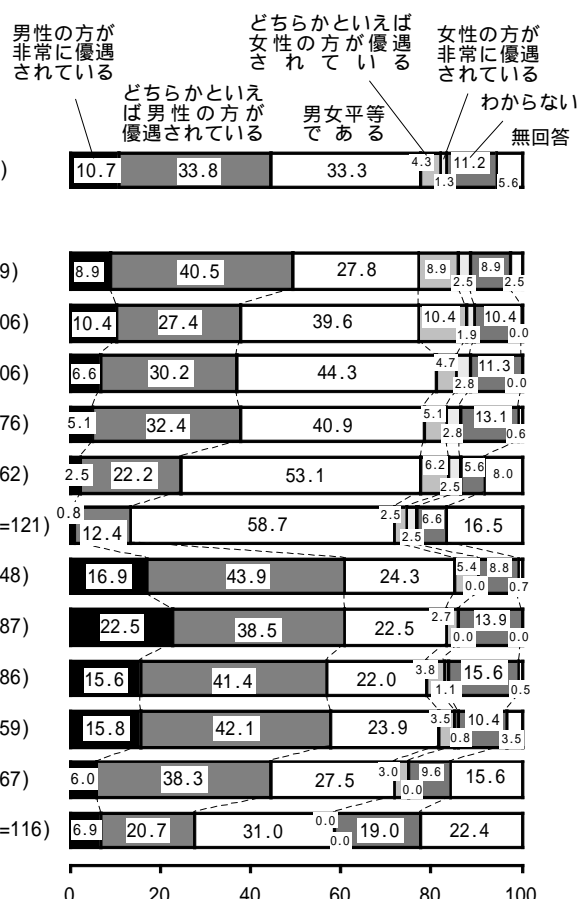
4. 地域活動の場で



5. 政治の場で

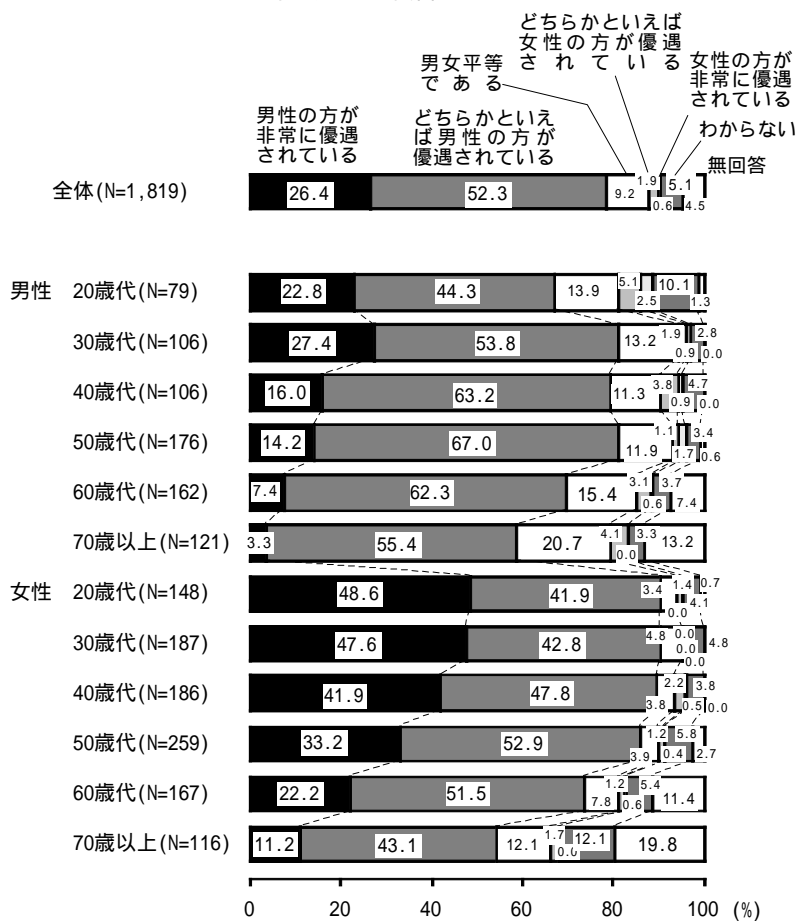


6. 法律や制度の上で



【図6-2-3 性・年代別 男女平等の現状認識】

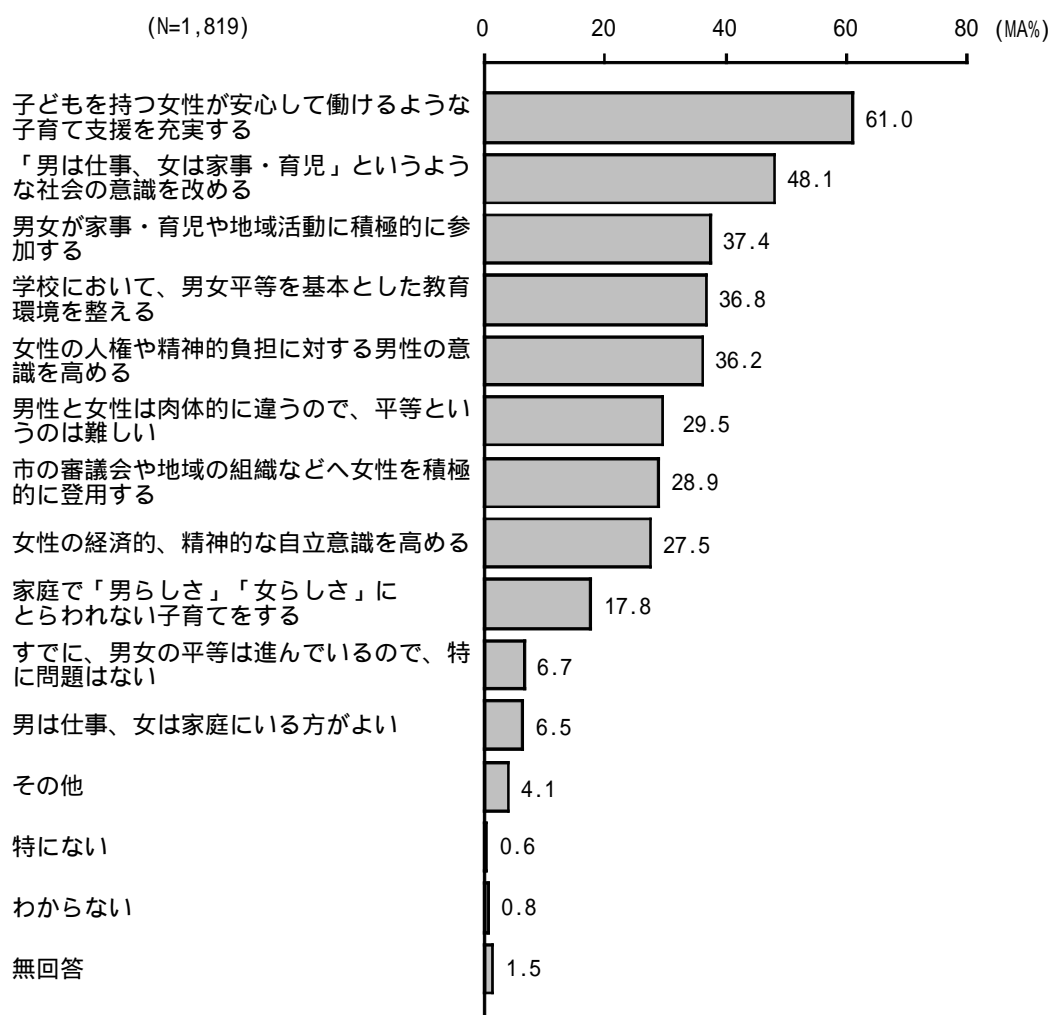
7. 社会通念・慣習・しきたりなどで



6 - 3 . 男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件

男女とも平等に個性や能力を発揮するために「子育て支援の充実」を必要とする人が約6割
 問18 . あなたは、性別にかかわらず、ともに男女の人権が尊重され、その個性と能力を発揮することができる社会をつくるためには、何が必要だと思いますか(はいいくつでも)

【図6 - 3 男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件】



男女の人権が尊重され個性・能力を発揮するために必要な条件については、「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」が 61.0%と最も多く、次いで「『男は仕事、女は家事・育児』というような社会の意識を改める」48.1%となっており、女性が働きやすくなるような制度の充実や社会意識の変革を求める声が大きくなっている。以下、「男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する」37.4%、「学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える」36.8%、「女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める」36.2%などとなっている。(図6 - 3)

【表6 - 3 - 1 性・年代別 男女の人権が尊重され個性・能力を發揮するために必要な条件】

(MA%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	N=1,819	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 61.0	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 48.1	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 37.4	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 36.8	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 36.2
男	20歳代 N=79	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 65.8	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 49.4	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 43.0	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 40.5	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 30.4
	30歳代 N=106	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 67.9	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 50.9	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 35.8	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 33.0	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 26.4
	40歳代 N=106	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 56.6	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 53.8	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 44.3	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 33.0	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 23.6 市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 23.6
	50歳代 N=176	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 48.3	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 39.8	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 35.8	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 35.2	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 30.1
	60歳代 N=162	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 54.9	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 45.1	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 42.6	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 38.3	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 34.6
	70歳以上 N=121	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 52.1	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 50.4	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 47.9	市の審議会や地域の組織などへ女性を積極的に登用する 37.2	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 35.5
女	20歳代 N=148	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 81.1	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 58.1	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 48.6	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 42.6	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 39.9
	30歳代 N=187	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 77.5	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 53.5	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 46.5	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 46.5	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 28.9
	40歳代 N=186	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 66.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 59.1	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 44.6	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 39.2	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 31.2
	50歳代 N=259	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 59.5	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 45.9	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 45.2	女性の経済的、精神的な自立意識を高める 35.9	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 34.0 学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 34.0
	60歳代 N=167	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 55.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 46.1	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 41.9	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 41.3	女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める 38.3
	70歳以上 N=116	子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する 45.7	「男は仕事、女は家事・育児」というような社会の意識を改める 39.7	男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する 33.6	学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える 31.0	男性と女性は肉体的に違うので、平等というのは難しい 29.3

性・年代別にみると、70歳以上の男性で「学校において、男女平等を基本とした教育環境を整える」が最も多いのを除くと、男女とも、いずれの年代においても「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」が最も多く、後者の割合は、女性の場合、年代が上がるにつれて低くなっている。なお、「子どもを持つ女性が安心して働けるような子育て支援を充実する」「『男は仕事、女は家事・育児』というような社会の意識を改める」「男女が家事・育児や地域活動に積極的に参加する」「女性の人権や精神的負担に対する男性の意識を高める」については、全般に女性の割合が男性より高くなる傾向にある。(表6 - 3 - 1)